

nikkor club

269
2022 SUMMER

70th
Anniversary

nikkor
club

特集
新時代の
ポर्टレート



CONTENTS

02 2022年度のごあいさつ

特集

07 新時代のポートレート撮影

ハナブサ・リュウ／大西みつぐ／河野英喜

ニッコールクラブ創立70周年記念連載 田沼武能先生に聞く

16 「ニッコールクラブ70年と日本写真界」 第1回 ニッコールクラブ創成期

コンテスト

- 30 サロン・ド・ニッコール カラーの部
選評：小林紀晴／大西みつぐ
- 42 サロン・ド・ニッコール モノクロームの部
選評：佐藤倫子
- 50 ネイチャー・フォトサロン
選評：三好和義
- 58 チャレンジ・フォトサロン
選評：ハナブサ・リュウ
- 63 予選通過者一覧
- 64 総評・得点表
- 66 ワンポイントアドバイス

連載

- 表2 地球のどこかで思いを馳せる
贅沢な夏の夜 高砂淳二
- 18 私のライフワーク 第5回
記憶 大西みつぐ
- 22 受賞者の“いま”
第20回三木淳賞
田川基成 文：池谷修一
- 24 エプソン 楽しくきれいにプリント 講座 vol.12
「マスターピース」となる作品づくりに
取り組みよう！
- 26 アベっちのZの秘密 その12
新しい「Z」ズームレンズは
望遠100-400mmもf/2.8 28-75mmも軽々！
阿部秀之
- 29 Let's Go Nikon College！ 第12回
ポートレート撮影を対象としたオンライン 講座の紹介
水咲奈々



表紙写真 舞山秀一

大型ストロボの光をコントロールすることを目的に撮影した作品撮りです。ブラインドで出来るストライプの影を使い、出力を落として開放のf/1.2で撮影することで、フォーカスの深度がまるで溶けていくような柔らかさを表現しています。

Z 6 II・NIKKOR Z 50mm f/1.2 S・f/1.2・1/200秒・ISO100・WBオート
M：村野みり ST：設楽和代
HM：橋本孝裕 (SHIMA)

作品

- 04 THE GALLERYセクション展
THE LIVING PHOTO -Shigemi Imamichi-
幸せな瞬間を美しく、感謝を伝える 今道しげみ
- 05 THE GALLERYセクション展
Irish skies -創作の泉- 和田直樹
- 06 THE GALLERY企画展
20年の眼
Maki Ishii Photo Exhibition“20years” 石井麻木
- 表4 三好和義×Z 9

製品情報

- 20 PRODUCT REVIEW VOL.19
NIKKOR Z 100-400mm f/4.5-5.6 VR S 上田晃司
- 28 ニッコールクラブ会員限定
ニッコールクラブ70周年記念グッズ
販売のご案内

インフォメーション

- 67 PHOTOGALLERY INFORMATION
- 68 会員写真展 PickUP！
ニッコールクラブ千葉支部／石津武史／
神内信夫／菊地博子／梅戸洋子
- 73 NCニュース
- 71 支部だより
- 75 イベント情報
- 表3 楽しく学べる！写真教室 Nikon College
- 巻末 ニッコールクラブ登録情報変更依頼書
会報270号フォトコンテスト応募規定
修理料金割引券

特集

新時代のポートレート撮影

ハナブサ・リユウ／

大西みつぐ／河野英喜 写真・解説

人を撮る。身近な人々を撮る。モデルを撮る。昨今のポートレート撮影は、社会や被写体となる人に対してもよりコミュニケーションのとれた自然体な写真をとらえられるようになり、そのような結果も求められてきているように思います。またコロナ禍、ソーシャルディスタンスやマスク生活の中で人を撮る意味や撮って残すことの大切さを再認識しています。今一度、これらのポートレート撮影についてここで考えみたい。

Portraits
for the New Era

「愁い」モデルのプロフィール、アンニュイな雰囲気を感じる表情に惹かれます。
D850・AF-S NIKKOR 105mm f/1.4E ED・f/1.4・1/3200秒・+0.3補正・ISO400・WBオート

「ひと」を撮る

Chapter
1

ハナブサ・リユウ

この2年以上続くコロナ禍では、「ひと」を撮ることが、とても難しい状況になっています。ソーシャルディスタンスを保つため、撮影会などのイベントも中止や延期になることが多々ありました。また、いろいろな意味でコミュニケーションが取り難い時代になってきています。このままでは、「ひと」に近付いて声をかけることなど出来ず、家族や知人以外の写真を撮ることが、不可能のように感じてしまいます。

私は撮影する場合、被写体である「ひと」ときちんと向き合って、コミュニケーションを大切に考えてきました。被写体と距離を取り過ぎることは、自分の撮影の仕方としてよくありません。かつては、広角レンズを使い、被写体にぐっと近づいてパースペクティブを出すようなスタイルが好きでした。しかし、今、相手の気持ちを考えると躊躇せざるを得なくなりました。この状況を乗り越えるためにも、新しい撮影方法を見出さなければなりません。

ウィズコロナへ移行している今、これからのように作品をつくっていくべき

いのだろうか、過去に撮ったものを見返しながら考えてみました。その中に、街中で「ひと」を撮ることを試みているような二つのシリーズがありました。一つは、パリで、街と「ひと」との関わり、都市での「ひと」の存在や見え方など、キャンドイドフォトのような作品。もう一つは、タイのバンコクで、出会った「ひと」の表情を瞬時にとらえる、ストリートポートレートというような作品です。

ポインントは、標準レンズから105ミリくらいの中望遠レンズで、近からず遠からず、被写体との距離をある程度保ちつつも、触れ合える感じがすることです。雰囲気や臨場感も感じながら、その「ひと」の存在感を出すのです。これなら、持続可能な撮影スタイルだと思いました。

「ひと」を撮ることは、「社会」との繋がりを持つ第一歩だと、私は常に考えています。「ひと」と関係性が希薄になることを避ける意味でも「ひと」を撮らなくてはなりません。これからも強く意識しながら、「ひと」を撮り続けようと思っています。

「ひと」との関係性が希薄になってしまいうような今。
だからこそ、「ひと」を撮ることが大切なのです。



「存在」パリの街角で出会った大きな女性の圧倒される存在感。D750・AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G・f/8・1/640秒・-1補正・ISO400・WBオート



「祈り」パリのアーケードで出会った、祈るように床の工事をしている職人。D750・AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G・f/9・1/500秒・-1.3補正・ISO400・WBオート



「優しさ」何とも言えない優しい微笑みに心が癒される思いがしました。D750・AF-S NIKKOR 105mm f/1.4E ED・f/1.4・1/200秒・-0.7補正・ISO400・WBオート



「笑い」あっけらかんとした無垢な笑顔。D750・AF-S NIKKOR 105mm f/1.4E ED・f/1.4・1/250秒・-1補正・ISO400・WBオート

身近な人、身近な家族を撮る

Chapter

2

大西みつぐ



娘が20歳になった時に、昭和の日本映画の女優さん風プロマイドをイメージして撮ったもの。

(写真1) D100・AF-S NIKKOR 50mm f/1.8G・絞り優先オート (f/4.2)・ISO400

「身近な人を撮る」ということでは、ニッコールクラブ会員のみなさんも得意な分野だと思う。この会報コンテンツにも必ずといっていいほど「親しい人々」を写した作品が応募されてくる。隣近所、商店街、散歩の途中など日常生活圏であれば、季節ごとの喜びも、日々の悩みなども等身大のものとして感じ共有できる。よそ行き顔をすることなく、率直にシャッターが押せるといふことでは、誰もが構えずに実践してほしいテーマということになる。そこでは「親しき中にも礼儀あり」という言葉通り、古臭い言い方かもしれないが、しっかり礼節だけは守りたい。気持ちとして打ち解けて撮れるからこそ、それぞれのプライバシーに留意すべきだろう。

さて、身近な人の根源は「家族」ということになる。慶事をはじめとする人生の通過儀礼、季節の節目、旅行など、すでにみなさんは「専属カメラマン」として家族とともにあるといつて過言ではないはず。しかし、家族を撮ることが日常化すればするほど、記念写真は形式化し、撮る方も撮られる方も一種のお約束として流されていくことになる。そのあたりを逆手に取って表現として自立させていったのが、「浅田家」の浅田政志さん。

写真家である浅田さんだけでなく、家



一番身近な存在である妻は写真嫌い。ずいぶん前の記念日だが100本の薔薇に頼って撮ることができた。

(写真4) D200・AF-S DX Zoom-Nikkor 18-70mm f/3.5-4.5G IF-ED・f/5.6・1/15秒・ISO100



2021年4月。コロナ禍の入学式だったが私も校庭に入れた。色のついた壁面のデザインを生かしフレーミング。

(写真3) Z 50・NIKKOR Z DX 16-50mm f/3.5-6.3 VR・絞り優先オート (f/11)・ISO400



2015年1月。下の孫が生まれた日に2歳の兄とともに撮影。静かな雰囲気、孫が馴染んでくれたのだろう。

(写真2) D760・AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G・f/3.5・1/250秒・ISO800

気持ちとして打ち解けて撮れるからこそ
それぞれのプライバシーに留意すべき



2019年4月。教室の中で撮影が出来たのだが上の孫はちょっと緊張。右の空間をしっかりと取って柔らかな描写にした。

(写真5) Z 7・NIKKOR Z 24-70mm f/4 S・絞り優先オート (f/4)・ISO400

深い記憶をそこに残していきたい。

落ち着いて撮れる家族。しかしそこにはテクニクとしての配慮が裏付けられている。レンズの焦点距離、フレーミング、空間構成などだ。それらを撮影の時点で過剰な縛りとしてでなく自然なものとして融合した。

写真1からうは私の家族。20歳頃の娘も2歳の孫もとても自然な表情になっている。娘がそれを作るのは簡単なことだろうが、孫が見事娘譲りの穏やかな表情となっている。なぜかは私にもわからない。何某かの力が働いたのでしょうか。いや伝わったのだろう。大事なことは、これは記念写真だ！という枠をしばし外すことではないか。硬くなる必要はないが、被写体としての個性に一人の写真家としてしばし率直に向かい合ってみるという覚悟を持つべきではないかと思える。

自然体が新しい！ 動画のように撮るポートレート

河野英喜

Chapter
3

身近なものを使って「遊ぶ」のが基本。水を使って不規則な動きやハプニングなどを期待し、回転しながら散らしてもらっています。変化に富んだ素敵な表情がたくさん撮れた。

撮影の流れを止めないのがポートレート撮影のコツです。それはシャッターを切り続けるという意味ではなく、言葉で動きを誘い、モデルの反応を余すところなくとらえることで、デジタルカメラが特に有利です。シャッター速度を遅めにし、敢えてブレを演出したり、興味ある話題でモデルの感情を揺さぶったりするのも突き詰めれば変化する表情が狙いだといえます。

ミラーレスに時代は流れ、ピントの合焦精度は飛躍的にアップしました。Z9のAF性能は別次元で、ポートレート撮影はほぼオートエリアAFで成立してしまう程の高い捕捉性能です。これからはピントだけに囚われず視野を広げ、ファインダーを通してモデルの表情にも目を向けてみませんか。

見やすい、撮影しやすい ファインダー

一眼レフカメラは内蔵メーターなどの値を基にテスト撮影を行い、ピントの精度判定はもちろん、露出・色調・構図や、フレーミングなど全て背面モニターで絵柄確認をしっかりと行う必要がありますが、対してミラーレスカメラは露出設定を反映させられるのでファインダー内でリアルタイムにシミュレーションできます。そのことにより、撮りたいイメージを可視化したり、屋外など自然光の撮影でも、露出や色調など



清涼感と肌の透明感アップを狙いEVFで確認しながらホワイトバランスを青方向に振り、露出もやや明るめに設定した。EVFのチューニングも良く、撮影画像とEVFの見え方がより近づいた。

を撮影の流れを止めずに修正したりすることが可能です。つまり常に自分がイメージする明るさや色調をファインダー内で確認して撮影できる点が大きな魅力です。

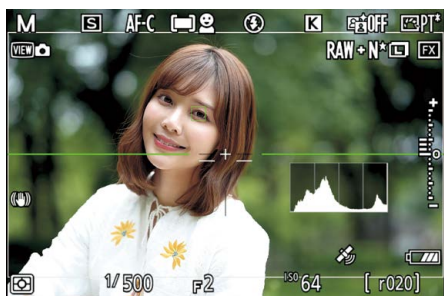
ZシリーズのEVFの仕上がりは最高で、僕はZfc・Z6Ⅱ・Z7Ⅱ・Z9を所有していますが、どの機種もとても見やすく感じます。その結果、長時間の撮影でも目の疲れが抑えられ、特にその効果は夕方頃から見え方の差となって実感できます。Z9ではファインダーについてもポートレート撮影で便利な機能が満載で、晴天の屋外など明るい場所では絶大な威力を発揮する高輝度パネルの採用や、従来のブラックアウトフリー撮影とは異なり、実際の被写体の動きを常にそのまま表示してくれる。僕が重宝しているのはファインダー内表示のカスタマイズとガイドライン表示のバリエーションアップです。全ては撮影画像の完璧性の追求に必要なツールで、快適な視認性は愛好家の皆さんも重宝できると思います。

進化し続けるAFの魅力

一眼レフ機からZ9が手元に届くまでは基本的にAF-Sモードをベースに、ピントが合焦したことを確認しながら撮影していました。もちろんZシリーズは今までファームアップを重ねAF性能も確実に向上し続けましたが、Z

9のAF性能と精度アップは桁違いで何度か撮影するうちにAF-Cのくいつきの良さを実感して、今ではオートエリアAFとの組み合わせで動画を撮影するかのようになり写真撮るようになりました。積極的に動きながら撮影しているのに今以上に表情も豊かに捉えられます。オートエリアAFも苦手なシーンはあります。そんな時はファ

POINT 1



見やすい表示

ここでは水準器を表示させて撮影をしている。モデルに重ねてもそこまで煩わしくない進化した水準器は好印象。用途によってすぐに切り替えられるのがZ9のファインダー表示の進化ポイント。

モデル：鈴木愛梨

ムアップ Ver2.00で追加されたワイドエリアAFなども含め最も効果的なAF機能で撮影します。

ファンクションボタンの多様性

デジタル一眼レフのファンクションボタンのカスタマイズについては正直なところほぼデフォルトのままでしたが、Zシリーズを手にして、今までにないEVFの可能性と快適さを求めるならiメニューボタンの究極のカスタマイズだと悟り、とにかく何度も機能の入れ替えや、配置換えで自分にとって使いやすい配列を目指しました。さらに、Z9のファンクションボタンのカスタマイズに至っては非常に柔軟性が高く、何度も設定を変えながら、自分にとって快適な操作性を今なお追求しています。まずは自分のカメラのファンクションボタンの可能性を今一度再確認してみましよう。またZシリーズをお持ちの皆さんはiメニューボタンのカスタマイズの探求がおすすめです。

それでは最後に、今実際に使用している僕のZ9の設定についてお話しします。ポイント2にあります「iメニュー表示画面」の写真をご覧くださいください。このメニュー画面上下二段の12項目の配置が大切です。僕は向かって左側から変更頻度の高いものを配置しています。iメニューボタンはしばら



ポーズとしては要求せず壁沿いに下がりながらの撮影はまさに動画撮影の手法で全身の体の線から緊張感が薄れるのが狙い。僕の視点は「目」のピントではなく画面全体のバランス。



顔の傾きなどにも迷うこともなく、動きに順応するようになった。たとえ顔が90度以上傾いてもAFが作動。色々な角度で探ったが極端でなければ瞳を認識しほぼ捕捉する。



Z9では瞳AFで小さな目まで認識しているようだ。そのため、今まで、合焦が難しかったモデルの顔が小さくなる引きのカットも今ではほぼ捕捉する。



動きながらの絵作りも今ではAF-CとオートエリアAFで問題なく撮影できる。動きを誘った時の表情はとても躍動感があって可愛い。



ファンクションボタンは瞬間を撮り逃さないための自分設定だ。機種によって設定できるメニューが違う。撮影ジャンルで設定も必要性も異なるが不要ならデフォルトのままでも全く問題ない。

くこの設定で実際の現場でも撮影しています。こうして使用頻度の高いものをまとめるだけでも、時間にして2〜3秒の違いしかないのかもしれませんが実際の撮影ではとても便利に感じます。つまりそのくらいモデルを前にしたらモデルを一人ぼっちにさせていないのですね(笑)。今まで設定や操作で下を向いてカメラとばかり向き合っていた方も、こうした流れを極力止めない工夫を重ねて、もっとモデルとのコミュニケーションを楽しみましょう。きっとあなたの写真が変わります。



このようなシーンでは時々顔認識や瞳AFが違うポイントを顔と認識していたが、最近ではそうした誤認識はかなり少なくなった。今回も良い結果を得られた。

撮影の流れを止めないのが 自然なポートレート撮影のコツ

POINT 2



【iメニューの表示画面】

上段左側から：ピクチャーコントロール/ビューモード設定(静止画Lv)/HDR合成/フォーカスピーキング/フラッシュ調光補正/フラッシュモード
下段左側から：AFエリアモード/被写体検出/ホワイトバランス/フォーカスモード/サイレントモード/メモリーカード情報表示/グループ発光設定

iメニューとファンクションボタン

撮影のシーン状況でどんどん設定を変更し、最良の結果を出せるようにするためにも、iメニューの表示項目の配置や、ファンクションボタンは使いやすい配置にしよう。自分が使いやすいと感じる配置にするためにもカスタムしたらしばらく使ってみます。撮影中に感じた「違和感」をメモしておくことがポイント、快適なカスタマイズや配置の元になるので時間をかけて丁寧に。



カスタムボタンの割り当て画面



楽しく学べる！
写真教室

Nikon College

ニコン カレッジ



ニッコールクラブ会員

¥1,000 割引
～¥3,000

※割引対象外の講座もございます。
詳細はニコンカレッジWebサイトをご確認ください。

7月・8月・9月講座 6月10日(金)申込受付開始

詳しくはニコンカレッジWebサイトをご覧ください。(6月6日(月) 更新予定)

<https://www.nikon-image.com/nikoncollege/>

ニコンカレッジ

検索



ニコンカレッジは、どなたでも受講いただける写真教室です。講師を務めるのは、全国の第一線で活躍中の50名を超えるプロの写真家です。幅広いジャンルの多彩な講座ラインナップをご用意しておりますので、初心者から上級者まで、お客様の興味や目的に合わせて、楽しみながら写真を学んでいただけます。少人数でプロから直接学ぶ撮影ノウハウは、きっと、あなたの写真表現の幅を広げることでしょう。ご自宅から受講できるオンライン講座に加え、全国7地区*で対面講座を開催。平日の仕事帰りや休日に学べる講座もご用意しています。ニッコールクラブ会員の方は割引価格で受講できる講座が多数あります。対面講座は、新型コロナウイルス感染防止のため、定員を10名以下に抑え、検温、消毒、換気など各種感染防止対策を施して開講いたします。

※東京、大阪、名古屋、札幌、仙台、広島、福岡で実施

7月・8月・9月講座より、ピックアップ！

1 オンライン活用講座を 42講座まで増強！

ニコンカレッジのオンライン講座は、いずれも120分1回完結型なので、初めての方やお忙しい方でも気軽にご参加いただけます。講義を中心としたセミナー形式のオンライン講座と、受講者の作品を講師が講評しながらアドバイスする講評会形式のオンライン講座を合わせて計31講座まで拡充。写真の“考え方”についても学んでみたい」とのご要望にお応えして、写真の奥深さを解説するアカデミックな講座も3講座ご用意しました。さらに、対面での撮影実習とオンラインでの講評会を組み合わせ効率良く学べる“ハイブリッド講座”も全国で11講座ラインナップして、実践でのステップアップをサポートします。

2 未体験の撮影ジャンルに チャレンジできる講座を拡充！

写真には「スナップ」、「風景」、「ポートレート」、「動物（鉄道・飛行機・動物など）」、「星景」、「画像処理」など様々なジャンルがありますが、未体験のジャンルに挑戦する際には、プロの写真家から指導を受けるのが早道です。ニコンカレッジでは、「その道のプロ」の講師から、『講義+撮影実習+講評会』の実践的な講座の流れを通して、未体験のジャンルに無理なくチャレンジしてステップアップすることができます。オンラインでもリアルでも、プロからの直接指導でレベルアップを目指しましょう。



Z 9・NIKKOR Z 20mm f/1.8 S・f/2・15秒・ISO2000 撮影地：精進湖（山梨県南都留郡富士河口湖町）

僕の心の中には、
いつでも富士山がいる。
夏でも冬でも
富士山に会いたくなる。

精進湖、早朝4時半。

「スターライトビュー」をONにする。

目の前の暗い景色が、

ファインダーに明るく写し出される。

星の明かりだけで、AFが合いやすくなる。

夜の風景を撮る楽しみが、また増えた。